

〔農場紹介〕

## 愛媛県経済連広見種豚増殖センター

愛媛県経済連畜産生産部 久保 尚

### 1. 概 要

愛媛県経済連は管内の養豚生産基盤振興を目的として、昭和50年代からSPF豚事業に着手し、農家の衛生レベル向上を図ってきた。しかしながら、食肉の安全性に対する社会的要求がますます強まるにつれて、SPF豚コマーシャル事業の拡大とSPF-F<sub>1</sub>種豚の安定供給を図る必要が生じたため、全農の東日本原種豚場（ハイコープSPF原種豚場；岩手県雫石町）が平成3年に設置されたことを契機に、平成5年、SPF-F<sub>1</sub>豚の供給基地として広見種豚増殖センターを開設した。

### 2. 立 地

広見種豚増殖センターを設置した愛媛県北宇和郡広見町は県南の宇和島から15km程度山間部に入ったところに位置し、周囲には養豚場がないSPF種豚場としては格好の立地となっている。水源としては土佐湾に流れ込む四万十川の源流の広見川が町内を流れ水質的には問題がないものの、汚水の放流が環境保全の観点から厳しく制限されている。また、広見町は高知県と愛媛県を結ぶ予土線の沿線となっており、農場の最寄り駅は宇和島から40分の位置にある出目駅である。

### 3. 施 設

敷地面積は全体で約66,000m<sup>2</sup>（20,000坪）で、造成面積は約20,000m<sup>2</sup>であり、施設としては、豚舎4棟、AI用採精施設、管理舎、堆肥舎、尿処理棟、倉庫がある。

豚舎はすべてウインドウレス豚舎とし、強制換気とサイクルファンによる温度管理により生産性の向上に努めている。

飼料給餌はすべてコントロールフィーダーでそれぞれの豚に最適用量になるように設定され、ボディコンディションコントロールを併用して繁殖成績の向上を図っている。

また、少人数で管理できるよう、洗浄高圧水の配管や豚移動時の通路確保方式など随所に省力化の工夫をしている。

糞尿は豚舎で分離された後、糞は堆肥舎で発酵処理され肥料として販売し、尿は四万十川水系に放流することができないため、全農型無排水処理施設で蒸散処理している。

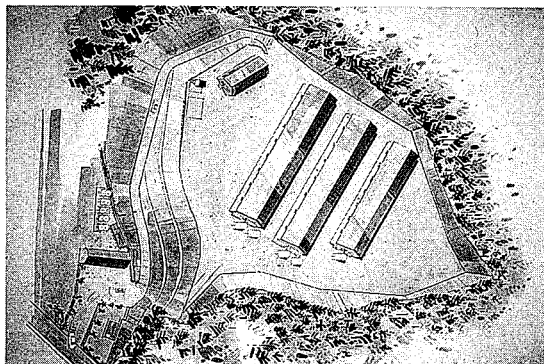
### 4. 種 豚

種豚は雌系としてLW、雄系としては主にデュロックを生産している。飼養種豚はランドレース種雌が約180頭、大ヨークシャー種雄が約15頭、デュロック種が雌雄合わせて約50頭となっている。ただし、昨年県内向けにAI精子供給事業を開始したため、このほかデュロック種の雄を上記以外に20頭飼養している。

### 5. 成 績

昨年度（平成7年4月～8年3月）の成績は、離乳腹数413腹、離乳率92%、母豚回転率2.22で1,500頭弱を登記した。

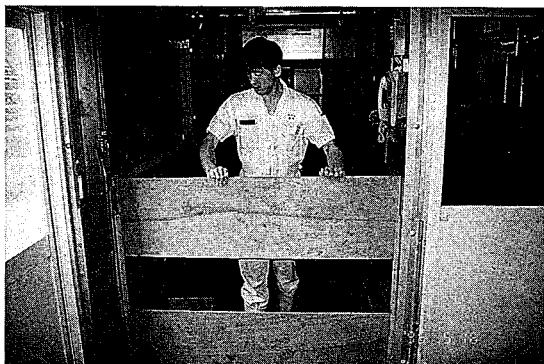
広見種豚増殖センターの位置



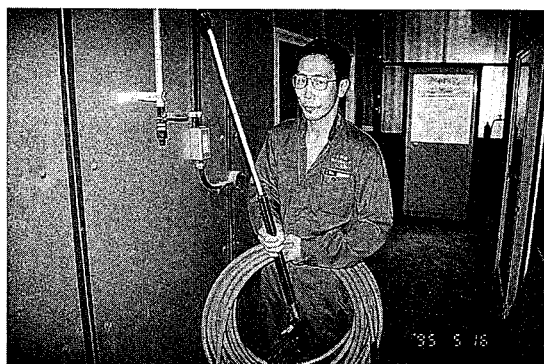
豚舎全景。公道から離れている。



サイクルファンとコントロールフィーダー（育成舎）。



通路にはスリットが設置され、板をはめるだけで豚の移動用通路ができる。



各豚舎に配管されている高圧・高温水にノズルを連結するだけで空豚房を洗浄できる(写真は筆者)。